

好奇心 雨にも負けないぞ！

第4回からだのふしぎ探検in熊本保健科学大学

子どもたち19ブースで多彩な体験

ワクワクドキドキ

おっかなびっくり…赤ちゃんの沐浴



採血に挑戦…注射器を手に慎重に



気分は検査技師…血液の姿とらえた！



お父さんと真剣勝負…カラーブロック積み負けなぞ！



熱演に拍手喝采…体の不思議をわかりやすく説明

子どもたちに人体の仕組みや医療について楽しく学んでもらう恒例の夏休みイベント「第4回からだのふしぎ探検in熊本保健科学大学」が9日（土）、本学キャンパスで開かれました。大雨の影響が心配されましたが、小学生を中心に親子連れなど、昨年並みの279人が来学し、実験、ゲーム、寸劇など工夫を凝らしたイベントに目を輝かせていました。

当日は1号館と図書館内キャンパステラスの2会場4つのエリアで、計19の体験ブースを設けました。医学検査エリアでは顕微鏡を使った細胞観察や飲み物のpH検査を、解剖・看護・助産エリアでは臓器模型の観察や赤ちゃんの人形を抱く体験を実施。また、リハビリテーションエリアでは、効果的なストレッチや自助具を使ったりハビリ、舌の力測定など、さまざまな体験コーナーが設けられ、各ブースで学生たちが子どもたちに分かりやすく伝えようと工夫を凝らしました。

一方、ASSC（アカデミックスキル支援センター）エリアの「からだのふしぎ わくわく劇場！」では、1年次生の7グループがオリジナルの寸劇を披露しました。大雨の影響で定刻に間に合わない出演者が続出する中、欠員を他の学生が急きょカバーしたり、プログラムを差し替えたりと臨機応変に対応。最終となる3回目の上演で全グループのメンバーがそろい、コミカルな演技で子どもたちの喝采を浴びていました。

参加者からは「お兄さんやお姉さんが優しく教えてくれて楽しかった」、「わくわく劇場が面白かった」といった声が寄せられました。一方、対応した学生からは「専門用語を小学生にも伝わるように説明するのが難しかった」といった感想も聞かれました。（入試・広報課）【2面に関連記事】

「化血研大賞」を贈呈



ブース部門の「化血研大賞」グループを表彰する化血研の馬場理事長（左）

ブース部門、ワクワク劇場部門

4回目の開催となった「からだのふしぎ探検in熊本保健科学大学」。本年度は、協賛の一般財団法人化学及血清療法研究所（化血研）による化血研大賞の表彰がありました。イベント終了後、キャンパステラスで行われた表彰式では、ブース部門、ワクワク劇場部門に分け、それぞれ化血研大賞と化血研賞を発表。馬場秀夫・化血研理事長が、各グループの代表者を表彰しました。（NL編集部）

被表彰グループは次の通り。

【ブース部門】▽化血研大賞 「赤ちゃんとふれあってみよう」、「遊びを使ったリハビリテーションを実践してみよう」▽化血研賞 「視線入力でシューティングゲーム」、「とろみ体験！！」、「考える力を測定しよう！」、「タイムアタック！！ 細胞を正しく、速く数えろ！」

【ワクワク劇場部門】▽化血研大賞 「伸びる！育っ！骨パワー」▽化血研賞 「頸椎が叫んでる！」、「20・20・にじゅう！」

健康・スポーツ
教育研究センター

レポート

B2熊本ヴォルターズ選手の体力測定

学生主体にフィジカルテストティング

バスケットボール男子Bリーグ2部（B2）の熊本ヴォルターズの選手を対象とした体力測定を1日（金）、本学アリーナで行い、7選手が参加しました。

Bリーグは、2024-25シーズンから、選手の身体能力を体位、俊敏性、跳躍力など様々な角度から測定するフィジカルテストティングを導入し、その結果を公式サイトで公開しています。

今回測定もリーグが定めるフィジカルテストティングの項目に沿って実施。久保下亮准教授と本田啓太講師（いずれも理学療法学専攻兼健康・スポーツ教育研究センター）の指導の下、同専攻スポーツリハビリテーションコース所属の4年生9人と、大学院リハビリテーション領域の学生3人が、垂直跳び、スプリント、スライドを含めたアジリティドリルなどの計測を行いました。

本学と包括連携協定を結ぶ熊本ヴォルターズは、B2リーグで4年連続プレーオフに進出してい

ます。2025-2026シーズンも、リーグ首位を目標に戦っています。（健康・スポーツ教育研究センター 中村祐貴）



バイオデックスを用いた関節の屈曲・伸展筋力の測定

特集・研究者たち、未来の巨匠…

「ぎんきょう」夏号を発刊

本学広報誌「銀杏学園通信 ぎんきょう」52号（夏号）を発行しました。3000部を保護者や実習施設、退職者などに配布します。

「研究者たち」と題した特集では、5人の本学教員を取り上げ、その研究や取り組み、思いなどを紹介。また、「未来の巨匠」コーナーでは、大学院生に大学院への進学を決めたきっかけや目標について、研究室紹介は、今年度から開講した公衆衛生看護学専攻科の岡順子専攻科長と戸渡洋子准教授に話を伺いました。このほか、今年度入学した学生たちのインタビューも掲載しています。A4判、32頁。（入試・広報課）

の表紙

「銀杏学園通信 ぎんきょう」

（夏号）





実習室でギャジベッド（介護用特殊寝台）の説明を聴く高校生たち

模擬授業や測定を体験 表情も真剣に志高く

高校生の1日看護学生体験

「高校生の1日看護学生体験」が19日（火）、本学で行われ、熊本県内の高校に通う生徒19人が模擬授業や測定を体験しました。

熊本県看護協会が、多くの高校生たちに、将来の仕事として看護職を選んでもらおうと、毎年この時期に開催しています。会場となった3320実習室では、「看護学とは何か」をテーマにした模擬授業が行われ、生徒たちは実際に聴診器を使った血圧測定やパルスオキシメーターを使った血中酸素飽和度測定を体験。「脈を取るのが意外と難しい」と言いながら真剣な表情で取り組んでいました。

この日は学内の見学も実施され、参加した高校生は「将来もっと練習して血圧測定を極めたい」、「実習設備がとても充実していて、ここで学びたいと思った」、「卒業後も図書館が利用できるなんて驚き」などと感想を述べていました。

（入試・広報課）